

環境騒音・振動測定士初級試験 問題の解答と解説

問 1. 騒音規制法の目的に関する記述について、下線を付した箇所で誤っているものはどれか。

この法律は、(a)工場及び事業場における事業活動並びに(b)建設工事に伴って発生する相当範囲にわたる騒音について必要な規制を行なうとともに、(c)自動車騒音に係る許容限度を定めること等により、(d)経済活動を保全し、国民の健康の保護に資することを目的とする。

- a. 工場及び事業場
- b. 建設工事
- c. 自動車騒音
- d. 経済活動

解説：騒音規制法第 1 条（目的）この法律は、(a)工場及び事業場における事業活動並びに(b)建設工事に伴って発生する相当広範囲にわたる騒音について必要な規制を行うとともに、(c)自動車騒音に係る許容限度を定めること等により、(d)生活環境を保全し、国民の健康の保護に資することを目的とする。よって、d.が誤りである。

解答：d

問 2. 振動評価に関する記述のうち不適切なものは、次のうちどれか。

- a. 振動規制の基準値は、全身振動の人体に対する生理的影響が現れる値によって定められている。
- b. 振動規制の基準は、全身振動の感覚に関する周波数特性を考慮している。
- c. 振動評価の判定条件として、「振動の大きさ、周波数、振動の方向、持続時間」という 4 因子が最も重要である。
- d. 振動規制法では、計量法に定める振動感覚補正した振動加速度レベルで評価している。

解説：振動規制の基準値は、全身振動の人体に対する心理的影響が現れる値を基準に規定している。

解答：a